

・資源化計画

商工会とのごみ減量化懇談会

平成15年11月25日、塩谷広域行政組合ごみ処理検討委員会では、第2回目の商工会とのごみ減量化懇談会を開催いたしました。事業者側からは「売っている物を買うのは消費者ですが、私共、売る側もごみを減らすことを考えよう。」などの意見が出ておりました。



商工会とのごみ減量化懇談会

委員さんからの声



各委員さんのご協力をいただき二年の任期を務めることができました。心から感謝申し上げます。

近年、ごみ問題は益々重要になってきており、行政、住民、事業者が一体となり取り組む必要があります。ごみの減量化、資源化を図ることは、ごみ処理の費用が少なくなり市町の財政負担が軽減されることです。生ごみの水切り、ごみの分別等一人ひとりがごみに対する意識付けを持つことが大切です。

今回の提言を参考に、各市町で引き続き検討し、実践活動に移行できるよう期待しています。

石下福一郎委員長

ごみは日々の生活の中で必ず発生するものである。人間が食事をして排泄する様な避けようのないことである。しかし、いずれも忌み嫌われている。

避けようのないごみと向き合い、どう捉え対処するのか？ごみ問題は日々の表れであり結果であることに気づいてみよう。

一人ひとりが、その結果を招いた原因を探る必要があるのではないだろうか。ごみは多くのことを物語っている。

各市町にごみ検討委員会が設置され、ごみを宝に転換する討議が望まれている。

小久保行雄生ごみ対策部会長

